

GLOBAL EDGE

[グローバルエッジ]

SOCIAL COMMUNITY MAGAZINE 73
2023 SPRING NO.



GLOBAL EDGE

NO.73 2023 SPRING



特集 境界をなくす融合の力

HOME 広島県竹原市
OF J-POWER

エデンの海の眺め

竹原市忠海町にある「エデンの海パーキングエリア」は、国道185号線沿いにある。若杉慧が1946年に発表した小説『エデンの海』の記念碑が立ち、展望台が設置されている。同作品は、忠海の女学校を舞台に女生徒と青年教師の恋と葛藤を描き、3度映画化された。舞台となった忠海沖の瀬戸内海を見渡せるこの地からは、晴れた日には四国の山々も見え、フォトジェニックなスポットとなっている。

(P.22から、作家・藤岡陽子さんによる広島県竹原市の紀行文を掲載しています)

文 / 豊岡 昭彦

写真 / かくた みほ

三重県鈴鹿市生まれ。スタジオマンを経て、写真家小林幹幸氏に師事、その後独立。写真集に『MOIMO! そばにいる!』(2017年、求龍堂)、『光の粒子』(2018年、求龍堂)など。4/15~6/11香川県高松市美術館で開催のフィンランドライフスタイル展に写真を提供。
<http://mihokakuta.com/>

特集 境界をなくす融合の力

Global Vision 隈研吾 × 村山均
自然と共生する暮らしへ 06Opinion File 早田 蚩
気象情報から始まる防災教育の第一歩 14Opinion File 小林 孝徳
不眠大国日本から世界へ 睡眠資本主義を推進 18

Focus On Scene エデンの海の眺め 02

Global Headline 寺島 実郎
次の77年をどう生きるか 日本の理念とビジョンを問う 05Home of J-POWER 藤岡 陽子
風待ちの港町で挑む人々に出逢う
～広島県竹原市と竹原火力発電所を訪ねて～ 22Global J-POWER 世界とともに タイ王国 Vol.1
1割を超える供給力でタイ国の電力安定供給に貢献 30POWER PEOPLE
佐久間電力所・新豊根発電所 32

Venus Talk タイムコーディネーター 吉武 麻子 34

匠の新世紀 中田工芸株式会社 35

Power of Words 私の好きな言葉
小説家 佐原 ひかり 39「音のソノリティ」を詠む 歌人 小島 なお
温水路の水音 40

J-POWER NEWS 41

竹原市の市木である竹をテーマにしたバンブー総合公園の竹林（広島県竹原市）。

表紙イラスト：鯉江 光二
本文デザイン：田村 嘉章、中川 まり、渡辺 美岐
制作協力：Weber Shandwick（ウェバー・シャンドウィック）

日本が第2次世界大戦で敗北した1945年から77年が過ぎた。1945年の77年前は、ちょうど明治期がスタートした1868年。そして、今年2023年の77年後は2100年。我々は22世紀への折り返し点、「未来圏の77年」の節目の年にいる。

2023年の今、日本は大きな危機の中にある。これは明治維新、敗戦に続く3度目の危機といっている。GDPは世界比率で約4%まで落ち、1人あたりGDPは昨年、台湾に抜かれ、今や韓国にも抜かれそうな勢いだ。そして、目には見えにくい、エネルギー価格の高騰や円の価値低下などによって、日本には新たな外圧が加えられており、危機的な状況が進行している。

こうした時に問われるのが理念とビジョン。掲げる理念は、歴史に学び、全体で考えることが大切だ。

明治期も戦後期も、日本は危機の中からスタートした。明治期には、欧米列強の植民地にされるのではないかという怖れの中で、富国強兵に走り、1914年から始まった第1次世界大戦では、日英同盟を背景に、中国・青島にあったドイツ領を攻撃。その後、「遅れてきた植民地帝国」として、国際連盟も脱退して、満州をはじめ、アジア諸国を植民地化しようとした。

戦後期も、日本は敗戦という屈辱の中

から復興し、米国主導の20世紀システムに組み込まれ、経済成長というプロセスをひた走って、1994年には世界GDPの約18%を占める世界第2位の経済大国となった。

こうした中、日本が譲ってはいけない哲学や理念とは何か。歴史から学ぶならば、日本に成功をもたらすものは対立ではなく、国際的な協調や連帯・開放であり、これは次なる世界の大きな流れとしても大切にすべきことだ。

今、国際的な分断や対立が激化し、世間では、米中の対立や、権威主義陣営対自由主義陣営のような単純な二項対立の構図で見ようとする動きが強い。しかし、対立と分断が日本に不利益な世界状況をつくりだすことは明白だ。

2023年の今、米国が世界を主導する時代は終わり、グローバルサウスの台頭、中でもアジアの成長によって、世界は、二極でもなく、多極を通り越して間違いなく全員参加型秩序に向かっている。

日本は日米同盟を保持しながらも、国際協調、連帯、開放という視野に立って、世界各国の全員参加の意思決定と、本当の意味でのグローバルな調整を担っていくべきではないのか。理念とビジョンを持った構想力が重要だ。

未来圏の77年を前に、日本人の思慮深さが問われている。

(2023年2月28日取材)

Global Headline

次の77年をどう生きるか
日本の理念とビジョンを問う

寺島 実郎

てらしま・じつろう

一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長。1947年、北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学研究所修士課程修了、三井物産株式会社入社。調査部、業務部を経て、ブルッキングス研究所（在ワシントンDC）に出向。その後、米国三井物産ワシントン事務所所長、三井物産戦略研究所所長、三井物産常務執行役員を歴任。主な著書に『ダビデの星を見つめて 体験的ユダヤ・ネットワーク論』（2022年、NHK出版）、『人間と宗教あるいは日本人の心の基軸』（2021年、岩波書店）、『日本再生の基軸 平成の晩鐘と令和の本質的課題』（2020年、岩波書店）など多数。メディア出演も多数。



TOKYO MXテレビ（地上波9ch）で毎月第3日曜日11：00～11：55に『寺島実郎の世界を知る力』、毎月第4日曜日11：00～11：55に『寺島実郎の世界を知る力ー対談篇 時代との対話』を放送中です。（見逃し配信をご覧になりたい場合は、左記QRコードにアクセスしてください）

Global
Vision

自然と共生する 暮らしへ

建築で境界をなくすことの意味とは

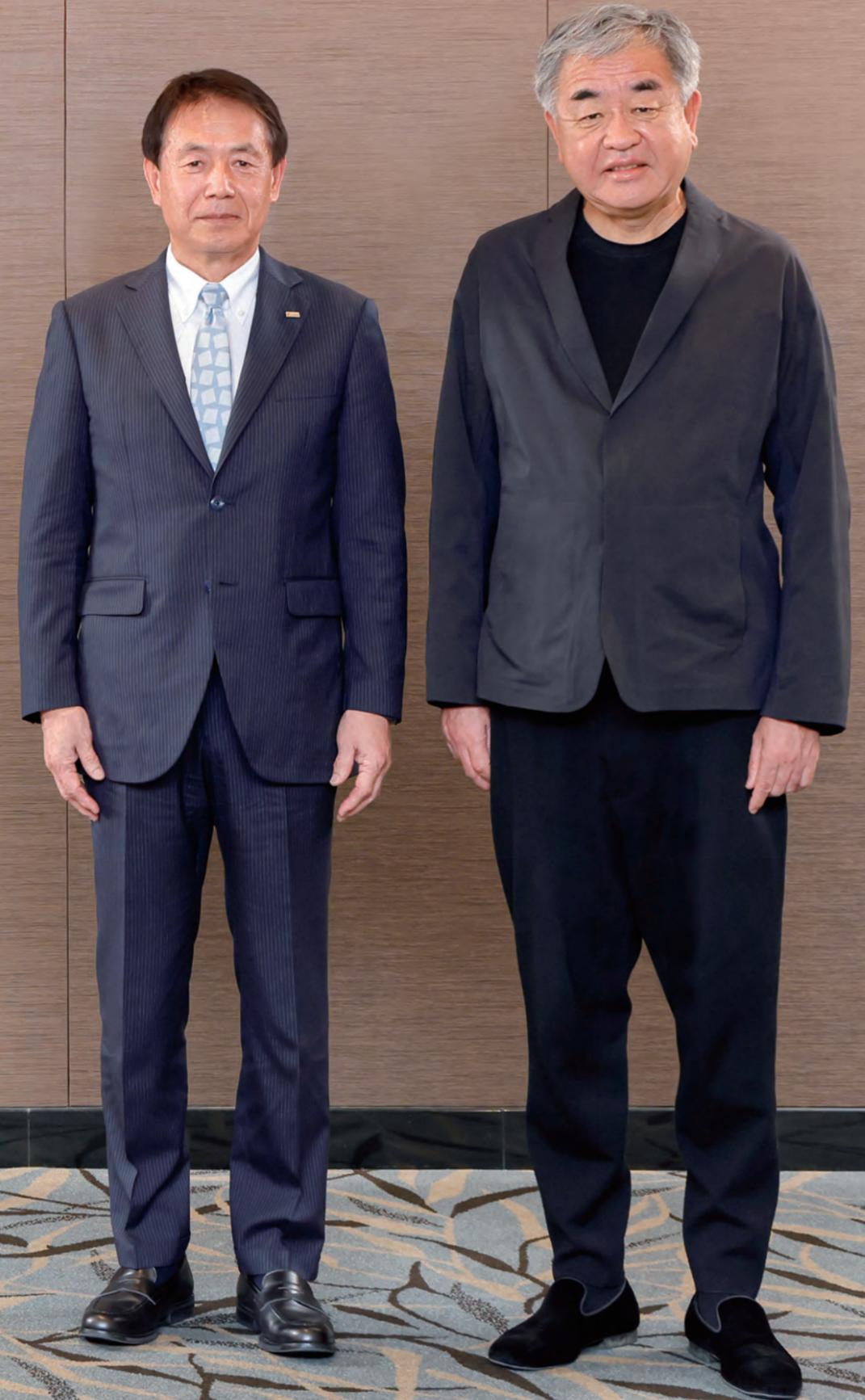
J-POWER会長

村山 均

建築家、東京大学特別教授・名誉教授

隈 研吾

30以上の国や地域でプロジェクトが進行中という建築界の巨匠。「地方と自然」、「小さなシステム」、「負ける建築」といったキーワードで世界をつくり替えようと東奔西走する、「境界を持たぬ人」である。





シドニーにある「The Exchange」。円形のデザインが多方向から人の流れを呼ぶ。写真：Martin Mischkulnig

地方にこそある日本の宝 その場所に密着した建築を

村山 先日、私は出張先のオーストラリアで、隈さんの建築作品を拝見する機会がありました。シドニーの人気スポット、ダーリング・ハーバーの中心に立つ「The Exchange」という大変に個性のかつ魅力的な建物でした。

隈 あれは高層ビルに囲まれた広場の中心に、周りの角張った景観とは対照的にランダムな円筒形の建物を置き、その周囲を木製のファサードをぐるぐる巻きにした「鳥の巣」の

ような形をしています。地上階にレストランやマーケット、上層階には図書館と幼稚園があって、建物全体で「まちと人をつなぐ複合施設」の役目を担っています。

村山 建築デザイン上のハイライトは、誰もがホッと息をつけそうなあの外観にあると思います。見た目に

自分の想像をはるかに超えて
日本の地方には多様性がある
と分かってきたのです。

Global
Vision
Kuma Kengo ×
Murayama Hitoshi



スコットランド特有の「崖」を模して環境と象徴性を表現したダンディーの美術館「V&A at Dundee」。写真：Ross Fraser McLean & HuftonCrow

都市から地方へ視線を移せば
建築も人も自然への回帰を
促すことができそうです。

り続けました。ところがバブルが弾けた途端、東京での案件が軒並みキャンセルになった時に、地方を回って仕事を探し始めたわけです。

村山 バブル崩壊が地方に着目するきっかけになったのですね。

隈 すると、自分の想像をはるかに超えて、日本の地方には多様性と優れた特徴があると分かってきました。腕利きの職人も大勢いるし、材料にしても木や和紙などの素晴らしい素材がふんだんにある。実は、日本の宝は地方にこそあるのではないかと。…ならば、自分のつくり方を一から考え直すしかないと思いを括りました。

自然に包まれ、地域とつながる
北海道東川町のオフィス空間

村山 そういう視線の延長線上なのか、隈さんは昨年5月、北海道の東川町に斬新なデザインのオフィス空間をつくられました。これは東川町と隈研吾建築都市設計事務所とのコ

ラボ企画とのことですが、どのようなプロジェクトなのか。

隈 旭川市に隣接し、人口1万にも満たない東川町は近年、移住者が増え続けていることで有名です。木工家具の産地である地域性を活かしつつ、ワーク・ライフ・バランスのモデル空間となる提案にあふれたサテ

は、絹糸を幾重にも巻きつけた繭玉のようでもあり……。
隈 あるいは、海辺という場所柄から貝殻をイメージする人もいるようです。公園広場とうまくなじむ形で木の素材感を活かそうと、高耐久化天然木材のアコヤをしなやかな形に曲げ、細長くつなぎ、曲面ガラスをはめこんだ壁面の外側に巻きつけてあります。一見、非常に複雑怪奇な構造のようでも、つくり方としては至極シンプルで、コストも抑えられる工法なのです。

日本の伝統建築を再評価し、特に素材としての木に注目して、数々の建築作品へ自在に取り入れておられます。そしてそこには、建築に向き合う姿勢として「内と外の境界を曖昧にし、自然と共生する暮らしへ」という信念があるようですが、そのような境地にどうやってたどり着かれたのでしょうか。
隈 ターニングポイントは1991年に起きたバブル経済の崩壊でした。その5年前に最初の設計事務所を開いた当時はバブル真っ盛りで、都市部に大きな建物を次から次へとつく

ライトオフィス「KAGUの家」をこの地に築き、地域産業の活性化や新しい産業の創出を目指そうと精魂を傾けています。

村山 東川町は国道や鉄道などの交通の便に恵まれず、上水道も整っていないとか。常識に照らせば住みやすいとは思えませんが、なぜ多くの人が、特に若い世代が引き寄せられるのか……何か特別なポテンシャルが備わっているのでしょうか。

隈 まずは大自然の美しさや豊かさに圧倒されて、水道がないのも天然の湧水で生活を賄えるからだと思いがいえます。恵まれた自然環境だけではなくほかにもありますが、ここにはヒューマンスケールの「まち」が共存していると気づいて、生活の場にしたくなるのだと思います。米国では、1マイル以内の生活圏で必需品や魅力的なものが手に入ることが住みやすさの目安とされますが、まさに東川町は「1マイル生活圏」の条件を満たしているのです。

村山 ヒューマンスケールと大自然が共存する場となると容易には見つからないわけですね。それで若い人たちが地域に根づいて暮らし、働くためのサテライトオフィスをつくられたと。その4棟ある「KAGUの

村山 都市から地方へ視線を移せば、建築も従来とはまったく違うものができるそうです。
隈 ローカルな自然資源やクラフトマンシップと一体になって、その場所に密着した建築をつくりたい。そうすることがその地域の人たちを幸せにするし、日本の可能性を拓くという気づきが、私にとって一番の転換点になりました。



北海道東川町にあるサテライトオフィス「KAGUの家」。木造2階建ての4棟には地産産の木材や家具も多用され、新しいワークスタイルを提案している。写真：Imada Photo Service

家」の1つには、ご自身の設計事務所も入居済みと伺いました。

隈 はい。日頃、我々の仕事場は都会にあって、物理的にビルの中で働いていると人間関係もビル内で完結し、外部との交流はまずありません。コロナ禍を機に、うちもサテライトオフィスを各地に構えて、もっと地域に根ざして、地方の人たちと一緒に仕事をしようという機運が高まり、その第1号が東川町で実現するという一石二鳥になりました。

村山 これ1年経ちますが、事務所の方々に変化は見られますか。

隈 現地での仕事を通じて、あるいは一住民として暮らす中で期待以上に地域の皆さんとの交流が活性化し、所員たちの文化まで変わってきている気がします。地域とともに未来をつくっていく、皆さんと一緒に盛り上がるうといった気概や意欲は、都会の仕事場では表に現れなかったものです。

「勝つ建築」の持つ脆さ

「負ける建築」にある強靭さ

村山 そうした都市から地方への軸足移動に加えて、隈さんは「小さな建築」とか「負ける建築」といった提言を発信されています。これは旧

かといえ、木が頭に浮かびます。ただ、かつて日本で火事や地震への脆さゆえに木造建築が廃れた経緯を思うと、境界としての強靭さに不安はないでしょうか。

隈 実は、素材としての木の耐震・耐火性能に関する技術はこの20年間で飛躍的に進歩し、木造建築への抵抗感も希薄になっていきます。むしろCO₂削減への貢献とか、人間のストレス緩和や集中力アップにもつながるなどの利点が見直されて、日本のみならず世界的に、木への移行が起り始めています。

村山 そういえば、冒頭のシドニーの「The Exchange」も木が主役ですね。

隈 現在パリで進めている駅舎の設計計画でも、フランス政府の方針で内装のほとんどに木を用いています。もう少し大きな流れで建築を見ると、20世紀はコンクリートと鉄の時代で、それ以前はその場所特有の素材でつくられました。森が豊かな日本では木を多用し、ヨーロッパでは石やレンガを用いた。20世紀になると、人口が急増し、工業化も進んで、どこでも手っ取り早くつくれるコンクリートが好まれました。しかし私は今後、その場所に一番適した材料で、

境界をなくしつつ強靭さを保ち、外と内をつなげるのが『負ける建築』の考え方です。

来の建築様式に対するアンチテーゼと受け止めてよろしいですか。

隈 私がこれを言い出したのは、阪神・淡路大震災や東日本大震災から得た教訓がきっかけです。20世紀の建築は、ひたすら強く大きなシステムを目指してつくられましたが、未曾有の災害の前にはなす術もない現実を突きつけられました。思い起こせば日本は、高度成長期に、いかに

効率よく東京中心の大きなシステムをつくるかに腐心してきた、それがもはや限界にきていると思えてならないのです。

村山 大きなシステムによる「勝つ建築」は案に相違して脆さを露呈した……そう分かった以上、私たちは考え方を改めねばなりません。ではなぜ、小さなシステムによる「負ける建築」は強靭さを保持できるの

それぞれの個性をつくり上げる建築様式に回帰すると思います。

「断崖の町」の美術館が唯一無二のモニュメントに

村山 大システムから小システムへの流れでいうと、我々の電力業界にも、電源を大規模発電所に集約する従来の方式から、電力の地産地消に近い分散型電源へ移行する動きがあ

ります。再生可能エネルギーの電源を拡充したり、CO₂排出抑制技術に磨きをかけたたりしながら、カーボンニュートラルな循環型社会へ着実に進んでいかねばなりません。

隈 おっしゃるように、大から小への移行には、自然や環境との調和とか、人間の回復といった根源的な要求が背景にあると思います。建築デザインにおいても、奇をてらつて

大きなシステムによる『勝つ建築』は、案に相違して脆さを露呈してしまっただと。

目立てばいいという姿形では受け入れられず、環境によくなじんで、コミュニティのシンボルになるような新しい造形が求められています。その意味では、建築の再定義とか、都市の再デザインが始まっていると思います。

村山 それこそが隈さんの建築作品の本領かと思いますが、例えば、スコットランドのダンディーという町につくられた美術館などは、思いも寄らぬ造形美に目を奪われるだけでなく、そこに落とし込まれた歴史的背景や町の人たちの思いなどを知れば知るほど、見る者に親しみや愛着をもたらす作品ですね。



隈 研吾(くまけんご)
建築家。1954年、神奈川県生まれ。東京大学大学院建築学専攻修士課程を修了。在学中にアフリカのサハラ砂漠で集落の美と力に目覚める。1990年、隈研吾建築都市設計事務所を設立。30を超える国や地域でプロジェクトを進行中。その土地の環境・文化に溶け込む建築を志向し、ヒューマンスケールのデザインを提案。木材など古来の素材を活かした「和」のデザインが持ち味。米国コロンビア大学大学院講師、慶應義塾大学教授、米国イリノイ大学客員教授などを経て現在、東京大学特別教授・名誉教授。主な著書に「全仕事」(大和書房)、『負ける建築』(岩波書店)、『自然な建築』、『小さな建築』(岩波新書)など多数。



Global Vision
Kuma Kengo × Murayama Hitoshi



横浜市を中心に首都圏の電力安定供給に資する磯子火力発電所。環境保全対策に加えて景観に配慮した彩色にも力を注ぐ。

Global
Vision
Kuma Kengo ×
Murayama Hitoshi

利用するという、やはり世界的な流れがありますね。

村山 今のお話で思い出しましたが、かつて私が発電所の視察で北欧などの環境先進国を訪れた際、建物の形状や色使いが日本とは大分違っていて驚きました。それに刺激されて、当時、リプレースを控えていた磯子火力発電所や橋湾火力発電所のデザインや色合いを決めるにあたって参考にしました。周辺環境に溶け込み、あまり出しゃばらず、ただし無味乾燥ではないといった、時代に先駆けるデザインを採用したつもりです。

隈 おもしろいもので、その時代で最も機能的な形を追求した建築デザインには、くつきりと時代性が映し出されます。一見、無個性のようで、いても時代の空気が感じられるので、発電所の建物もちよつとした工夫で魅力的なものにできるはずですよ。

エネルギーを原理にして都市の形を決める時代

村山 いま私たちが直面する様々なエネルギー問題にどう向き合っていけばいいのか、何か提言などがあれば最後にお聞きしたいのですが。

隈 エネルギーは、地球環境と最も密につながっているものという認識

がまず大事です。都市の形成過程を見ると、古来、人々がどういう便利さを求めたかで都市の形が決まってきたわけで、20世紀は自動車などの交通インフラで都市の形が決められ、それによって人間の生活も規定されました。そして21世紀、これだけ地球環境問題が大きくなって、今度はエネルギーが都市の形を決める時代が来ているように思います。

村山 つまり、エネルギーを原理にして都市や建築を考え直したり、人間のライフスタイルを見直したりする必要があるだろうと……。

隈 さもないと人類がサステナブルに続いていけないという危機感を、誰もが共有しなければなりません。しかし残念ながら、都市デザイナーや建築デザイナーの現場でも、初めに形ありきでプランを立てて、後からエネルギー調達を考えるみたいな逆順が未だに起こりがちです。

村山 電気はどこか遠くから運んでくるものという考えは、たしかにサステナビリティに欠けるかもしれません。いまや自前の発電設備によって電気を自給自足することも可能で、地域単位でエネルギー需給をやり繰りする仕組みもつくれる時代ですから、都市計画や建築にまつわるエネ

豊かな自然の中で暮らすことが、人々の当事者意識を増幅するのに役立ちます。



隈 ありがとうございます。あの町は海岸沿いの断崖と洞窟が名所になっていますが、国内でもあまり知られていない存在でした。ところが2018年に「スコットランドの新しいランドマークに」との使命を帯びて設計した美術館が完成するや、地域住民から愛されて評判が評判を呼び、米国の著名新聞で「今年行くべき世界の旅行先」に選出されるという光栄にも浴しました。

ショーンした美術館があるという新聞記事を読んだのですが……。
隈 恐らくそれは「テート・モダン」というロンドンの国立美術館ではないかと思います。発電所は内部の大きな空間を活かして、古風で味わいのある施設に改築される例が珍しくありません。私も中国・上海で古い造船所の建物をコンベンションセンターにつくり替えたことがあります。歴史的建造物を安易に壊さずに再生

エネルギーと環境の問題の解決を、決して他人任せにはいけませんね。

ルギー調達にも多様な選択肢があると思います。

隈 エネルギーは自分の暮らしと不可分のもので、その使い方だけで地球環境を壊す方向にも、逆に守る方向にも振れていきます。自らの選択の結果がエネルギーと環境の問題となって眼前に現れる……そういう当事者意識を常に持つことが求められているのではないのでしょうか。

村山 問題の解決を他人任せにしてはならない……そうと頭で分かっている、なかなか行動が伴わないというジレンマを抱えた人も多いかと思えます。これまでのお話を通じて、当事者意識を育むための良い処方箋はないのでしょうか。

隈 先の東川町のケースのように、都会から地方に出て、豊かな自然の中で暮らすことが当事者意識を増幅するのに役立ちます。多少の不便を強いられ、常に自分の命と向き合っている一種の緊張感を保つことが根源的に大事で、都会暮らしでは得られない利点だと思えます。

村山 お話の一つひとつが、これからは生きる糧になった気がいたします。本日は、ありがとうございます。



気象情報から始まる 防災教育の第一歩



早田 瑩

気象予報士・防災士

命を守る防災教育 気象予報士の新たな使命

2020年7月、西日本から東日本まで広く大雨をもたらした「令和2年7月豪雨」。熊本県など、特に九州地方においては記録的な降水量が観測された。

熊本県出身の気象予報士で防災士の資格を持つ早田瑩さんは、その2週間前、母校の八代市立坂本中学校で防災教室を開いたばかりだった。

この町にはどんな災害リスクがあるか、大雨が降ったらどうするか、いっどこに逃げるのか、日頃からどんな備えをしておくか。ハザードマップ（※1）を見ながら生徒たち自身に考えてもらい、話し合いながら理解を深めていくワークショップ形式の講座。その様子は地元ケーブルテレビ番組でも紹介され、豪雨の前日にも放映されていたという。

「私自身もSNSで注意を呼びかけていますが、番組を見てくださった方々や、講座を受けた生徒たちやご家族が早めに行動を起こしてくれたと聞きました。後日、校長先生に伺うと、家や車が流されてしまった子もいるものの、命は全員が助かったと。生徒たちが率先して、妹や弟、お年寄りを避難させていたという話を聞き、防災教育の大切さを改めて胸に刻むことになりました」

気象予報士というとお天気キャスターのイメージが強いと思われるが、それだけが活躍の場ではない。2022年8月現在、気象予報士の登録者数は全国で1万1273人を数えるが、このうち気象庁の「令和2年度気象予報士の現況に関する調査」に回答した約半数の属性を見ると、個人や民間の予報業務許可事業者（※2）で働く人は全体の約9%に過ぎない。大半はメディアを含む民間企業や自治体、

教育機関、公的団体などに広く散らばり、無職の人や学生も約17%に上る。その一方、気象予報士の資格や知識を役立てたい業務としては、「地域における防災活動」がトップで約39%、続いて「教育活動」（31%）、「防災・安全・危機管理など職場の防災対策」（30%）となっている。

まだ人数は少ないが、早田さんもそうした防災・教育分野に自らの道を求める気象予報士の一人。NPO法人（特定非営利活動法人）「防災WEST」（※3）の一員として、また個人としても、九州エリアを中心に気象・防災に関する講演、ワークショップ、お天気教室などの活動が続けている。地域の人々を招いて公民館でのセミナー、企業の職場研修や大学等の公開講座でのワークショップ、子どもたちや教職員に向けて小中高校でのお天気教室や防災教室と、自然災害の脅威を人々が身近に感じるようになったにつれて早田さん

の出番も広がりを見せているという。

熊本地震が教えてくれた 国家資格を活かす道

早田さん自身、幼い頃から災害とは隣り合わせの生活を送ってきた。生まれ故郷の坂本町は球磨川の下流域に広がる緑豊かな山村地帯だが、大雨が降るとたちまち川があふれ、

道路の冠水や土砂災害が毎年のように起こる土地。いつか生死にかかわるほどの大災害がやって来たらどうしよう。そんな不安を抱えながらも、天気予報で大雨が予測できれば命を守ることもできるはずと、子ども心に思っていた。それが、やがて気象予報士を目指すことにつながる原体験だ。

「高校生になって地学の授業で気象のおもしろさに触れた時、気象予報士という職業が具体的な夢に変わりました。実現したのは大学4年生。8度目の挑戦でやっと合格できました。実は高校を出ていったんは就職したのですが、気象予報士になる夢を諦めきれず、大学でみっちり勉強する決意をしたんです」

晴れて気象予報士となった早田さんが、実際にその資格を活かして防災に関する普及・啓発活動に本腰を入れることになったのは、それから4年後の2016年である。気象予報士の職にはなかなか恵まれず、結婚や出産もあってしばらく仕事から遠ざかっていた時期だった。その年の4月14日、あの熊本地震（※4）が

故郷を襲う。

「当時、夫の転勤で宮崎県で暮らしていたので私自身は難を免れたのですが、実家の親族や友だちが被災して苦しんでいるのに、何もしてあげることができなくて。町は瓦礫の山、避難所には多くの人が身を寄せて、人手や物資を求めています。でも、私には生後7カ月と2歳の子どもがいて現地には行けない。こんな時のために取ったはずの気象予報士の資格も役立てられませんでした。ただ悲しくて悔しくて、無力感に包まれました」

思えば、合格率約5%の難関を突破して気象予報士の資格を手に入れても、誰もがすぐにそれを活かせるわけではない。早田さんも子育てをしながら働ける気象関係の仕事を探したが、子どもがいることなどを理由に断られることが多かった。予報業務だけが気象予報士の役割ではない、まだ広く認識されていないが、自分はこの資格で必ず防災に貢献する道を開く。この時改めて心に決めた。

折しも、所属していた日本気象予報士会からの依頼で防災講座にかかわる機会があり、同じ志を持つ九州在住の気象予報士たちとの知己を得て、2016年9月に防災WESTの前身となる組織を結成した。

備えなければ生まれない いざという時の行動

早田さんたちが力を入れる防災講座とはどんな内容なのか。「令和2年7月豪雨」の1年



気象と防災に関する専門知識を使って「災害で人が亡くならない街づくり」を目指す早田さん。

「私自身もSNSで注意を呼びかけていますが、番組を見てくださった方々や、講座を受けた生徒たちやご家族が早めに行動を起こしてくれたと聞きました。後日、校長先生に伺うと、家や車が流されてしまった子もいるものの、命は全員が助かったと。生徒たちが率先して、妹や弟、お年寄りを避難させていたという話を聞き、防災教育の大切さを改めて胸に刻むことになりました」

早田さんたちが力を入れる防災講座とはどんな内容なのか。「令和2年7月豪雨」の1年

※4 熊本地震

2016年4月14日に熊本県益城町で震度7を観測した地震に始まり、16日にかけて熊本県・大分県で震度6を超える複数回の地震が続いた。

※3 防災WEST

災害から命を守るため、気象情報を得る方法、使用方法を広く伝えることを目的に活動するNPO法人。WEST: Weather Educational Specialist Team <http://bosaiwest.starfree.jp/>

※2 予報業務許可事業者

気象業務法に基づき気象庁長官の許可を得て、気象や地象、洪水などの予報業務を行う事業者。民間の気象情報会社など。

※1 ハザードマップ

自然災害による被害の予測を地図化したもの。



県内外の小中高校、特別支援学校などで行う防災ワークショップ。気象情報などに関する基本的な知識は教えるが、災害に備えて何をするか、災害時にどう動くかは自分たちでアイデアを出し合うのが原則。気象現象に関する実験も子どもたちに人気のメニュー。

はやたぼたる
気象予報士、防災士。NPO法人防災WEST（気象予報士活動有志会）所属。熊本県八代市出身。福岡大学経済学部在学中の2012年に気象予報士の資格取得。結婚・出産を経て、2016年9月に防災WESTの立ち上げに参加。防災に関する普及・啓発活動を開始する。現在、九州を中心に講演、ワークショップ、お天気教室などを通じて気象情報に基づく防災教育などを行っている。2019年6月、一般社団法人日本気象予報士会より石井賞、2020年6月、気象庁福岡管区気象台より台長賞を受賞。
https://notanuki.com/

取材・文/松岡一郎（エスク립ト）
写真/竹見脩吉

「知る」マントを起点に つながり広がる防災の輪

そこで今、早田さんらは熊本県とともに、マイタイムラインを活用した防災教育の教材づくりを進めている。昨年来、県内20校余りの小中高校・特別支援学校で行った防災教室の模様を動画に収め、必要な資料を加えて編集したオリジナル教材だ。

「今春これが完成したら、先生たち自身の授業に取り入れて、防災教育を進めてもらえたらと願っています。全国の学校や自治体でも参考にできるものにしたいですね」

子どもが動けば、大人の動きも変わる。そのためにはまず、こうした教育を通じて「知ること」が大切だと早田さんは訴える。「2018年の西日本豪雨（※7）では、事前に気象庁が『西日本を中心に記録的な大雨になる恐れがある』と異例の記者会見を開いたにもかかわらず、人々の避難につながらず多くの人が逃げ遅れで大きな人的被害となりました。天気予報や気象防災情報の意味と使い方を知らなければ、自分や大切な人の命は守れない。坂本中学校の生徒たちが自らの行動で示してくれたように、正しい知識を身につければ、いざという時に冷静な判断ができるのです。そのことを伝えたくて、子どもたちには簡単な実験器具を使って、雨や雷や竜巻の仕組みといった、気象現象を体験的に知っ

てもらおうワークショップも開いています。そこで学んだことを家に帰って家族に話してもいい、一緒に防災のことを考える。そうやって地域の小さな芽が、だんだんつながってくれたらと思います」
地域に根を下ろす活動を続ける理由はそれだ。その功績が認められ、2019年に日本気象予報士会石井賞（※8）、2020年に福岡管区気象台長賞（※9）を受賞した。「まだちゃんとした成果も出した実感がないのに、賞までいただいた戸惑いました。でもこれは、もっと頑張れ、もっとつながれたいという応援なんだと信じています」
早田さんと防災WESTの活動の場はもう、全国に広がっている。

※9 気象台長賞

気象庁が6月1日の気象記念日に表彰する気象業務に貢献した個人・団体に対する賞。国土交通大臣表彰、気象庁長官表彰、気象庁次長表彰に続くもの。

※8 石井賞

一般社団法人日本気象予報士会が選定する、支部活動・サークル活動における顕著な功績に対する賞。

※7 西日本豪雨

2018年6月28日以降、台風7号や梅雨前線の影響によって西日本を中心に発生した集中豪雨。正式名は平成30年7月豪雨。



公民館などで地域に根差した活動を展開（熊本県八代市坂本町鶴喰地区で）。

※6 マイタイムライン

住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）を記したスケジュール表。2015年9月の関東・東北豪雨で被災した栃木県・鬼怒川流域での経験をもとに考案された。

※5 坂本中学校ホームページ

https://jh.higo.ed.jp/sakamoto/



熊本県がWebサイトで公開している「くまもとマイタイムライン」。Web上で記入しながらオリジナルシートを作成できる。

◎研修3

行動。最後に班の代表者が自分たちの仕事を紹介し、活動内容を全員で共有。
居住地域ごとに編成した班で、災害時の避難行動を時系列にまとめたマイタイムライン（※6）を作成。ハザードマップを見ながら避難先を確認し、各自の避難計画を発表。

以上はプログラムの一例だが、ふだんの活動では、「気象情報の種類と意味」、「避難情報に基づく行動の仕方」、「ハザードマップの見方」を三本柱として、講師の話聞いて受講者が基本的な知識を得たら、大雨などを想定したシミュレーションで行動のイメージをより具体化し、最後に自分たちが考えたことを発表し合って共有している。

いづれにしても重要なのは、「自分や家族の命を守るためにどう行動するか」という視点、そして「それを自分自身で考えること」だと早田さんは言う。どんな災害がどこで起き、どれくらいの危険が予想されるのか、その状況は地域ごとによった異なる。だから、何かの資料に載っている行動計画の見本や他人がつくった計画を真似たりしても、絶対に安心はできないのだ。

「備えておく防災グッズにしても避難するタイミングにしても、こちらから『こうしてください』とはあまり言いません。自分の考えを書いた付箋をワークシートにどんどん貼ってもらったりして、具体的な行動を引き出し

後、その時の体験をもとに前出の坂本中学校で行われた防災教室の様子から、一部を以下で紹介する（詳細は同校ホームページに記載、※5）。防災WESTのメンバーが講師を務め、地域の電力会社のスタッフも協力した。

◎研修1

7月豪雨を分析し、タブレット端末を使って線状降水帯発生メカニズムや河川の水位などを調べ、球磨川氾濫の原因について学ぶ。発電の仕組みも道具を使って体験。

体育館で避難所開設・運営の疑似体験。設備班、食事班、道具班、生活班に分かれて



不眠大国日本から世界へ 睡眠資本主義を推進



株式会社ニューロスペース
代表取締役社長 CEO
小林孝徳

世界でワースト1位 睡眠不足の日本人

「四当五落」という言葉が、受験生の間でまことしやかに言われていた時代がある。4時間の睡眠なら合格できるが、5時間眠ったら合格はできない――。受験生を鼓舞する言葉だったのだろうが、科学的根拠はなく、現代においてこの法則を信じる受験生はいないだろう。しかし、これが過去の言葉となった今でも、日本人は世界でもとりわけ睡眠時間が少ないことをご存知だろうか。

経済協力開発機構（OECD）が2021年に発表した統計によれば、日本人の平均睡眠時間は7時間22分で加盟33カ国の最下位（P・19グラフ参照）。加盟国の平均より1時間も少ない。さらに気になる数字がある。米国のシンクタンク・ランド研究所は2016年に、日本人の睡眠不足による経済損失額を

年間15兆円と算出した。睡眠障害による生産性の低下などにより、実にGDPの2・92%を損失したことになる計算だ（※1）。こうしたデータは、日本企業にとっても看過できないはずだ。睡眠はもはや個人だけの問題ではない。社員から最大限のパフォーマンスを引き出すためには、個々の睡眠を「資本」ととらえる「睡眠資本主義」の考え方が必要――そう提唱するのが、株式会社ニューロスペース代表取締役社長CEOの小林孝徳さんだ。

「利益を出すためには睡眠を取りましようというのが睡眠資本主義の考え方です。会社を継続的に発展させていくための戦略的な行動が睡眠なのです」

ニューロスペースは、睡眠の課題をテクノロジーの力で解決するスリープテック事業※2の国内パイオニア。企業に対して睡眠改善のためのサービスを提供し、業務効率の向上に

寄与している。小林さんが同社を立ち上げたのは13年。実は以前から、小林さん自身も睡眠の問題を抱えていたという。

「起業する前はITベンチャーで働いていましたが、社内には寝ないで働くことが美德とされる文化があって、当時の睡眠時間は平均4時間ほど。昼間に強い眠気に襲われたり、10秒前に言われたことが思い出せなかったりするものがあって、危機感を持つようになったのです」

同じ悩みを抱えている人がいるのではないかと調べたところ、日本では5人に1人が何らかの睡眠障害で苦しんでいることが分かった。これは自分だけの問題ではないと痛感し、睡眠改善事業を起こそうと決意したのだという。

「もともと、いつか自分の手で会社を立ち上げたいという夢を持っていた」という小林さん。起業するにあたって、2つの軸を定めたのだ。急増し、メディアでも注目を集めることになったのだ。

現在、ニューロスペースが提供しているサービスは3つある。

1つは、睡眠セミナー。睡眠の役割や重要性を理解し、自分の眠りの特徴を知ることと睡眠の技術を高めていくための講座だ。これまでに130社超、2万人以上が受講している。

2つめは、睡眠に関する簡易診断を行う「My Sleep」。5分程度のアンケートで現在の睡眠状況と生活習慣をチェックし、一人ひとりにパーソナライズした快眠のためのアドバイスが受けられる。いずれも、従業員に負担をかけずに睡眠改善の一步を踏み出せるものだ。

3つめは、睡眠計測デバイス「Fitbit」を活用した睡眠改善プログラム。Fitbitをつけて眠れば、睡眠の傾向や課題を可視化することができ。それをもとに、睡眠改善に向けた具体的な方法をアドバイスし、その行動変容をサポートしていくものだ。このプログラムの効果検証を大学の研究者とともに実施したところ、3カ月のプログラムを経て、時間管理能力や集中力が向上し、仕事の成果が上がったなどの効果が認められた。

「その経済的効果は1人あたり年間12万円と評価しています。エビデンスのある施策を求める企業様に対して自信を持って提供しているプログラムです」

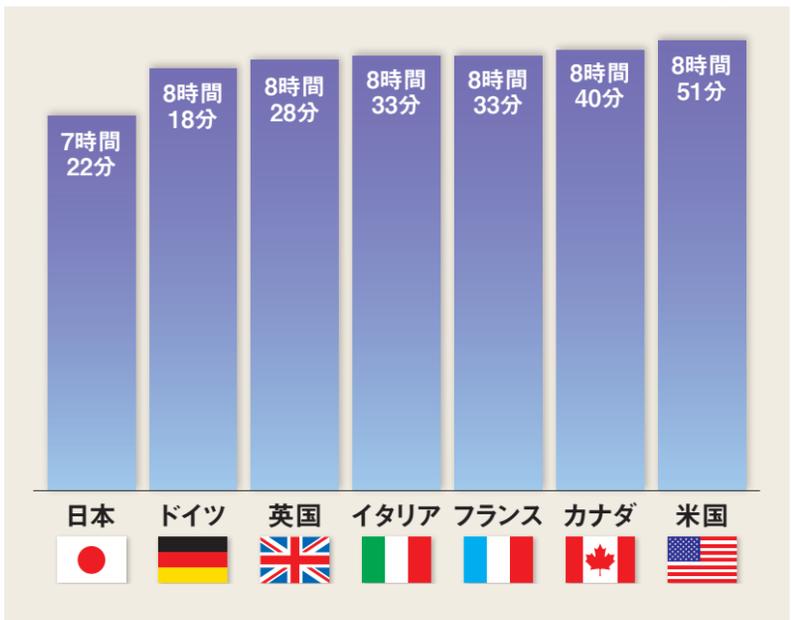
いた。「1つは、まだ誰もやっていないことをやりたいと考えていました。社会課題の解決につながる事業や、社会にインパクトを与えるようなことに挑戦したいという漠然とした軸です。もう1つは、何があっても諦めずに熱意を注げることをやりたいという軸。当時自分が抱えていた睡眠の問題が、社会全体の課題と合致することを知り、温めてきた起業の2つの軸が『睡眠』というキーワードでつながったのです」

睡眠技術を獲得できる 3つのサービス

創業当時は「スリープテック」という言葉さえなかった時代。「当社が提供するサービスについてお話をしても、ほとんど見向きもされなかった」と、小林さんは当時を振り返る。2015年に経済産業省が「健康経営銘柄」※3を選定する取り組みを始め、従業員の健康を配慮する企業が注目されるようになったが、取り上げられる項目は食事や運動など。睡眠についてコミットする企業はまだ少数派だった。

しかし同年、ニューロスペースが手がける睡眠セミナーを大手ベンチャーで実施することになった。睡眠リテラシーを向上させるための研修で、「睡眠は技術である」という小林さんの言葉は、多くの参加者の心を打った。特に、長く現場を経験してきた同社社長は、店舗勤務時代に睡眠で困っていた実体験を持ち、講義の内容において関心を寄せたという。これを機に、この大手ベンチャーでは睡眠改善による健康経営の取り組みを本格的に始動。その動向を知った企業から問い合わせが

【G7加盟国の睡眠時間の比較】 出典:OECD「Gender Data Portal 2021」より作成



※3 健康経営

従業員の健康管理や健康増進のための取り組みを経営的な視点で考え、戦略的に実践すること。労働力人口の減少などを背景に、健康経営への関心が高まっている。

※2 スリープテック

SleepTech。ITやAIなどの技術を活用して眠りを分析し、睡眠を改善させるための製品やサービスのこと。近年、睡眠の質が注目されていることから、スリープテック市場は急拡大中だ。

※1 睡眠不足による経済損失

米国のランド研究所はほかにも、睡眠不足により、日本社会全体で年間およそ60万日分の労働時間を失うと指摘している。



「従業員がよく眠れている企業ほど評価される時代が来る」と小林さん。

ニューロスペースがこれまで培った知見や技術を、社会課題の解決に役立てたいという小林さんの思いは、他業種との協業という形で新たなソリューションを生み出している。航空会社とのコラボレーションで開発を進めている時差ボケ解消アプリなどは、その一

他業種との協業でスリープテックを進展

ニューロスペースがこれまで培った知見や技術を、社会課題の解決に役立てたいという小林さんの思いは、他業種との協業という形で新たなソリューションを生み出している。航空会社とのコラボレーションで開発を進めている時差ボケ解消アプリなどは、その一

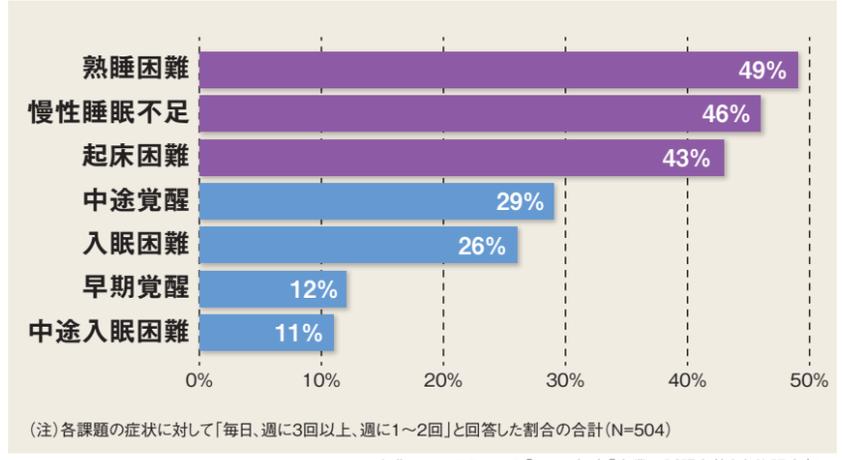
「質の良い睡眠がプラスの経済効果をもたらすことは、これまで述べてきた通りです。企業が従業員の睡眠改善を促し、各々が最適な睡眠を確保することで会社の利益や生産性が向上し、ひいては企業価値につながるのです。不眠大国日本から睡眠資本主義という概念を世界に広げたいというのが私の切なる願いです」

かつて「24時間、戦えますか？」という

実現だ。

ちなみに、小林さんに快眠のポイントを聞いたところ、朝起きたら太陽の光を浴びて体内時計のリセットすること、夜は身体の内部の深部体温が下がる時に質の良い眠りが実現できるため、寝る1時間前の入浴や温かい飲み物を摂取することが望ましいと教えてもらった。日中に15〜30分程度仮眠するのも、仕事の効率を上げるうえで効果的だそう。今日から実践できそうな内容ばかりだ。

【ビジネスパーソンの睡眠課題別割合】



出典:ニューロスペース「2018年度「企業の睡眠負債」実態調査」より

睡眠ブーム到来で不眠大国返上なるか

ニューロスペースが実施した調査によれば、ビジネスパーソンの7割以上が自分の睡眠に不満を持っているという。理想の睡眠時間と実際の睡眠時間には1.2時間の乖離があることも分かった。さらに、熟睡困難（たくさん寝たはずなのに疲れが取れずだるい）、慢性睡眠不足（就寝時、意識を失うようにあつという間に寝る）、起床困難（すっきり起きることが難しい）といった課題を抱える人も少なくない（上のグラフ参照）。こうした現状をふまえて睡眠の重要性を訴え続けてきた小林さんだが、22年は「睡眠ブーム」の追い風が吹いたと感じている。

「5月に慶應義塾大学商学部の山本勲教授が、従業員の睡眠時間が長い企業ほど利益率が高い、という研究結果を発表しました（下のグラフ参照）。睡眠と企業の利益率（※4）には相関関係があるということです。睡眠の重要性を周知させるうえで非常にインパクトのある発信だったと感じています」

ブームはアカデミック領域にとどまらない。政治の領域では「勤務間インターバル制度（※5）」を推進する動きが加速した。

「勤務間インターバル制度は、終業時刻から次の始業時刻までの間に一定の休息時間を設けることで、睡眠時間を確保し労働生産性の向上につなげようという取り組みです。この

キャッチフレーズとともに流行した栄養ドリンクがある。量をこなせば生産性が上がる時代を駆け抜けた世代が、いま企業の上層部として古い価値観を捨てきれないケースも少なくない。

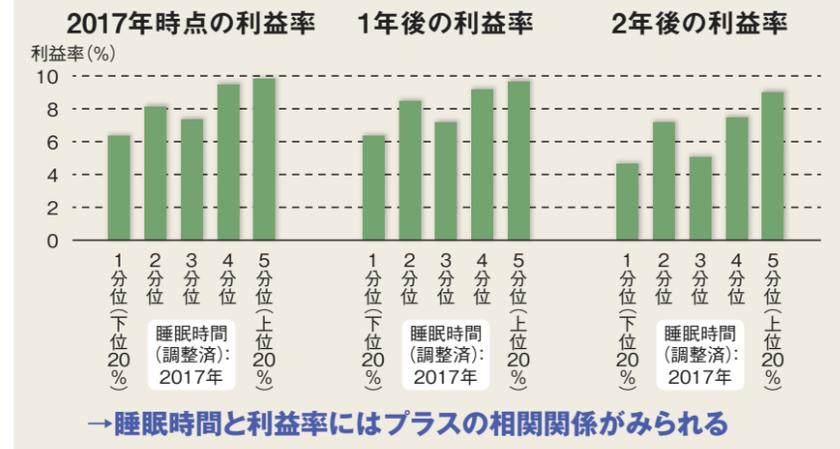
「自分たちが若い頃は寝ないで働き成果を上げた、という成功体験が脈々と受け継がれている企業はまだ多くあるのです。睡眠資本主義を実現するためには、経営陣の意識改革も不可欠だと思っています」

まずは経営者自ら、睡眠改善による効果を体感することが大事だと話す小林さん。

「睡眠はもともとの体質に左右されるもので、改善はできないと諦めている方もいらつしゃいますが、それは誤った考え方です。睡眠のリテラシーさえ身につければ、誰もが上達することができるのです」

そう、睡眠は技術なのだ。

【企業単位の平均睡眠時間(性別・年齢調整済み)と利益率(ROS)】



出典:慶應義塾大学商学部 山本勲教授の研究より

制度の導入は企業の努力義務となつていますが、実際にはなかなか進んでいない状況です。これを見かねた政府が、導入企業に対する助成金支給を決定しました」

このほか、昨年は睡眠の質の向上を謳った乳酸菌飲料のヒットなども話題になった。こうした一連の動きは、睡眠への関心が高まっている証左だろう。

しかし、小林さんが見据える未来は、もう一歩先にある。先に言及した睡眠資本主義の

こぼしたかのり
株式会社ニューロスペース代表取締役社長CEO。1987年生まれ。新潟大学理学部薬粒子物理学科卒業。2013年、自身の睡眠障害の経験をきっかけに株式会社ニューロスペースを創業。睡眠改善プログラムを提供し、これまで2万人以上のビジネスパーソンの睡眠を改善。眠る会社ほど利益が上がる睡眠資本主義社会の実現を目指す。Forbes Japan Official Columnist「睡眠をアップデート」を執筆、著書「ハイパフォーマンスの睡眠技術 人生100年時代、人と組織の成長を支える眠りの戦略」(2020年、実業之日本社)がある。
https://www.neurospace.co.jp

取材・文：脇ゆかり(エスクリプト) 写真：本人提供

「教育現場で睡眠の技術を学べる機会がつけられたらと思っています。私たちは睡眠のメカニズムやその大切さを学ばないまま大人になりました。その結果、睡眠の質を下げるような行動を無意識のうちにとりつけてしまっている。睡眠は生きていくうえで欠かせない知恵です。ぜひ教育現場に睡眠教育が普及するよう、自分たちができることを考えていきたいと思つています」

スリープテックビジネスが注目を浴びるなか、これを一過性のものとせず、人々の睡眠の意識を変革させるための挑戦を続けていきたいと語る小林さん。その思いは、着実に実を結びつつある。

※5 勤務間インターバル制度
「働き方改革関連法」の成立に伴い、2019年4月に努力義務として規定された制度。2021年時点で導入した企業はわずか4.6%。

※4 睡眠と企業の利益率
山本教授は睡眠時間だけでなく、睡眠の質と利益率の相関関係にも言及している。企業単位での睡眠効果のエビデンスはまだ少なく、産学連携で検証を進めているところだ。



風待ちの港町で 挑む人々に出逢う

～広島県竹原市と竹原火力発電所を訪ねて～

広島県

竹原市

竹原火力発電所

忠海港からフェリーで約15分で行ける大久野島。「うさぎ島」とも呼ばれ、島内にはたくさんのうさぎが生息している。

Jパワー竹原火力発電所は広島県竹原市にある。古くから瀬戸内の交通の要衝であった竹原は江戸時代に製塩と酒造で栄え、いまもなお観光の名所である。歴史の面影を残した情緒豊かな港町を旅して歩いた。

作家 藤岡陽子 / 写真家 かくだ みほ

忠海港からフェリーで約15分
うさぎが暮らす島へ

竹原市内にある忠海港を出発したフェリーは、凧たのうみいだ瀬戸内海を滑るように進み、大久野島おおくのしまに着岸した。港を出発してわずか15分の航海が、日常とは別世界の離島へと誘ってくれる。大久野島は周囲約4kmの小さな島で、「うさぎ島」と呼ばれる竹原でも人気の観光スポットだ。

フェリーを降りて島に上陸すると、茶色や白色、灰色の柔らかな毛を持つうさぎたちが木のねもとや芝生の上、あちらこちらでピョンと跳ねていた。

島内にはたくさんのうさぎが生息しているようで、それが「うさぎ島」の名前の由来でもある。

「おいで、おいでー」
近づくくと、一羽、二羽と、うさ

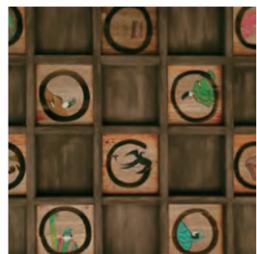
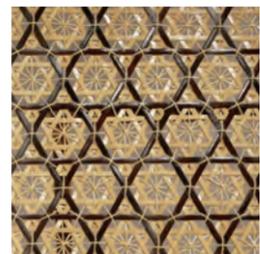
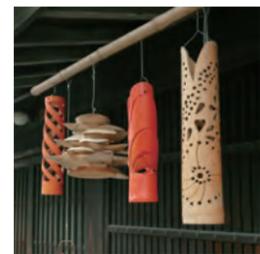
ぎたちが集まってきた。人に慣れていて、犬のように立ち上がってエサをねだる様子がなんとも愛らしい。

島で感じた平和の大切さ
歴史伝える毒ガス資料館

いまでは島内に宿泊施設があるほどの観光名所になっている大久野島だが、重厚な歴史があることにも少し触れておきたい。

かつて大久野島は日清・日露戦争時に瀬戸内海の防衛の要地となっていた期間があるという。そのため島にはいまも砲台の跡が残っている。さらに1929年から1945年には毒ガス工場が建てられ、人知れず毒ガスや信号筒風船爆弾が製造されていた。そうした歴史は島の中心部にある毒ガス資料館を訪れると詳しくわかり、館内では当時の記録や毒ガスの製造に使用された備品の数々を目にすることができ。

毒ガス製造を秘密にするため、戦時中は日本地図から消されていたこともある大久野島。だが戦争の爪痕が残る島を、地元の人々が長い年月をかけて、愛される島へ



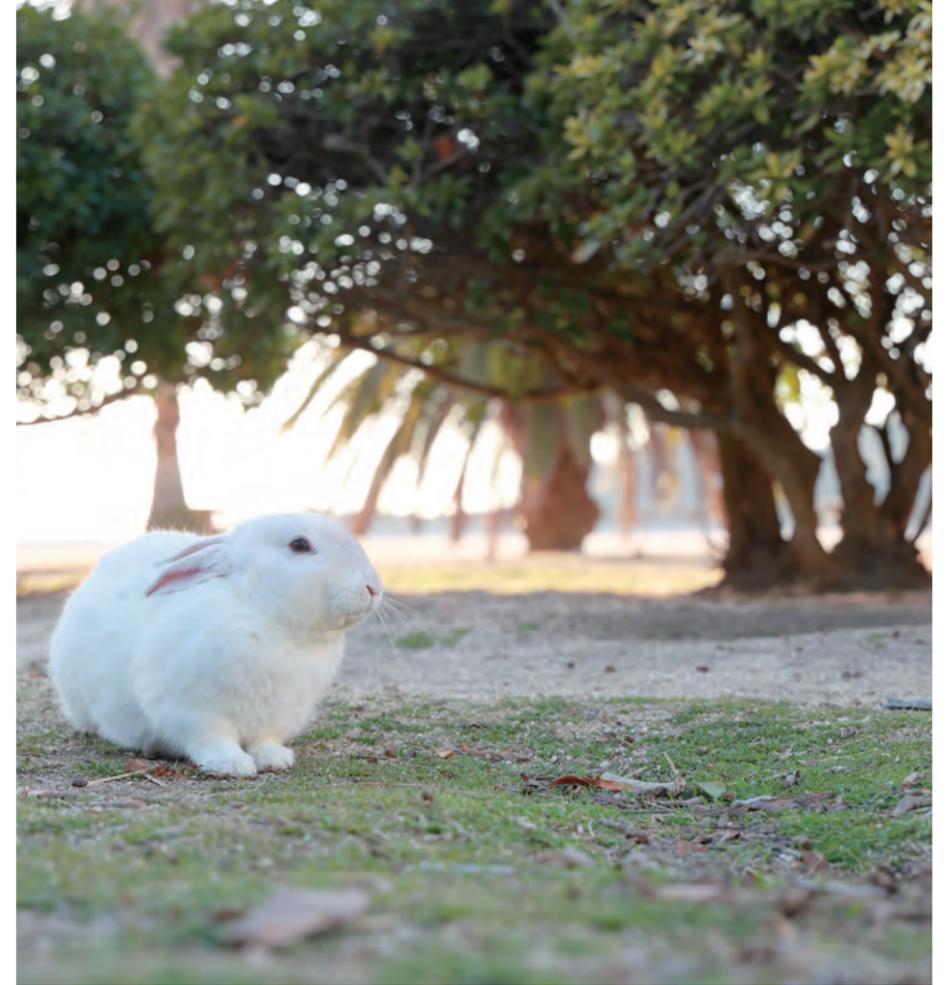
藤岡陽子 ふじおか よしこ
報知新聞社にスポーツ記者として勤務した後、タンザニアに留学。帰国後、看護師資格を取得。2009年、『いつまでも白い羽根』で作家に。最新刊は『空にピース。』。その他の著書に『満天のゴール』『おしよりん』など。京都在住。



たけはら町並み保存地区の本町通り。通り沿いには歴史を感じさせる建造物が並ぶ。



朱色の普明閣は、西方寺本堂横の高台に立つ。



人に慣れているのか、人がいるところに集まってくるうさぎたち。

と変えていった。

大久野島のうさぎたちは可愛い。けれど癒やしだけではない、平和であることの幸せを感じられる貴重な時間が、この島には流れていた。

江戸時代から昭和の建造物情緒漂う「町並み保存地区」

うさぎを満喫した後は、「町並み保存地区」へと車で移動する。遠くに見える水平線に視線を延ばしながら沿岸部を走ること十数分。再び日常を忘れるような情緒ある町並みへとたどり着いた。

石畳の本町通りを、ゆったりと歩いていく。

通りの両側には江戸時代から始まった製塩業や醸造業、北前船の廻船問屋などで財を成した豪商の屋敷が建ち並ぶ。

漆喰の壁に本瓦葺。軒下のカラフルな飾り物や玄関先にそっと置かれた竹細工の花器。ハートやクローバーの形にくり抜かれた格子など、家屋の細部に趣向が凝らしてあるのを見ていて楽しい。

江戸時代の建物以外にも1929年に建てられた竹原書院図書館（現在は歴史民俗資料館）なども

残り、過ぎ去った遠い時代の空気に触れさせてくれる。

本町通りから高台に続く石段を上がり、西方寺の境内へと向かった。境内からさらに上に続く小径を歩いていけば、寺の観音堂である普明閣が現れる。1758年に建築されたという普明閣の舞台からは、かつて風待ち港としてにぎわった竹原の町が一望できた。

竹原の伝統工芸を守る まちなみ竹工房の気概

玄関に飾られたカラフルな竹細工の風車に惹かれ、足を止めた。玄関先に掲げられた表札には「まちなみ竹工房」と刻まれ、予約なしで竹細工体験ができるようなので、おじゃましてみた。

「私たちの竹工房は、竹原市竹工芸振興協会が母体になっています。

- 1 うさぎの耳の形をした集音器。
- 2 休暇村のカフェで買える「うさぎのはなくソフトクリーム」。
- 3 大久野島にある毒ガス資料館。
- 4 本町通り沿いの家で目にした竹細工の花器と美しい花。
- 5 ニッカウツスキーの創業者、竹鶴政孝と妻・リタの銅像。政孝は竹原出身で、本町通り沿いには美家の竹鶴酒造がある。
- 6 ビースリーホームバンブー総合公園にある竹の館。
- 7 竹原市の竹林。
- 8 竹を割る竹原市竹工芸振興協会のみなさん。



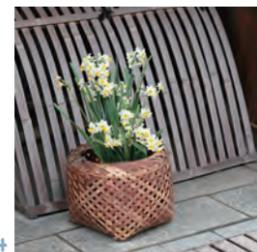
1



2



3



4



5



6



7



8



2



3



1



5



6



4

1 竹細工の作品を片山さん（左）に見せていただく。「瀬戸内海クルーズ船『ガソウ』」に採用されたスツールです」と片山さん。 2 千代紙でカラフルに装飾された二連の風車。 3 竹細工体験で四波波がごくりに挑戦。竹ひごを一本ずつ組み込んでいくのは根気がいるが、心が落ち着く。 4 敷地内に積み上げられたカキ養殖用のホタテの貝殻。ここにカキの幼生を付ける。 5 センター内で飼っているカニの雌。4月になったら水温を上げて、連休明けに卵をふ化させる。 6 生後約50日のアユの稚魚。1匹が0.5gになったら出荷する。

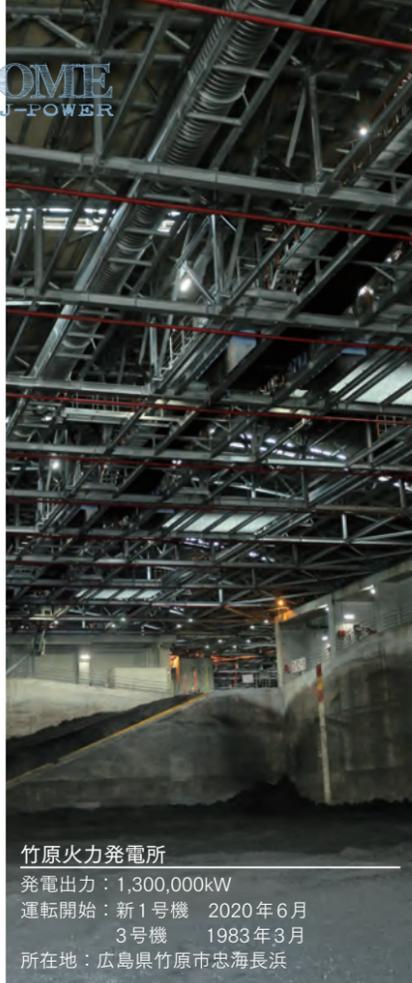
市内に工房が3カ所あり、120名ほど在籍する会員たちが持ち回りで運営しているんですよ」と出迎えてくださったのは職人で事務局長の片山一廣さん。体験コースでつくれるのは竹とんぼや風車、花かごなどで、私は四波波しはいなみと呼ばれる花かごを選び、作業場に腰を下ろした。「竹は軽いし強いし、水気をうまく処理すれば何年も使える丈夫な素材です。教えてもらおうとけっこういろいろつくれるもんで、みんな楽しんでやっていますよ」工房の前身は、かつて竹原にあった職業訓練校の竹工芸科だったと片山さんが教えてくださる。訓練校がなくなってからは、地元地元の伝統工芸品を守ろうとする有志で工房を立ち上げた。驚いたのは、広島市内にあるマツダスタジアムに設置されている竹のトンネルが、竹原市竹工芸振興協会の作品だということだ。職人が竹原市内の竹藪から竹を切り出し、ひごに加工したものが、センターボード裏のアーケードとして活用されているという。偶然にも取材に訪れた2日後に



瀬戸内海に沈んでいく夕日。放流した稚魚たちが無事に大きく育ちますようにと、願いをこめる。

然とした。「32年間この仕事をしています。毎年気づきがあります。提供した稚魚が大きく育ち、『たくさん獲れるようになったよ』と漁師さんに言われると嬉しいですね」と語る松原さんの顔には、好きなことを仕事にしている充足感と、漁業を支える使命感が滲んでいた。飼育されていた稚魚は2.5〜3.5cmで出荷。そして放流された稚魚が海で育ち、大きくなって漁師さんのもとに戻ってくる。時間も手間もかかる作業の上に漁業が成り立ち、私たちの暮らしがあることを学んだ。すぐに形にはならなくても、この頑張りはいつかどこかで報われる。努力は時間を超えて結実する。毒ガスの島が癒やしの島へと変わったように。伝統を守る想いがスタジアムのアーケードをつくったように。見えないくらい微小な卵が、見事な海の幸となって食卓を彩るように。地道に緻密に未来のために、小さな挑戦を重ねる。私もそんな気概を持って生きていと思った。

竹ひごづくりが行われると知り、現場を見学させていただいた。青空の下、竹と格闘するみなさんの姿は生き生きと眩しく、清楚で素朴な竹にも似た力強さがあった。漁師を支える栽培漁業 放流した稚魚への想い 竹原火力発電所の近くにある「広島県栽培漁業センター」を訪れて、栽培漁業についての話を聞かせていただいた。「センターでは魚やカニなどをふ化させ、少し大きくしてから漁業協同組合に提供しています。提供した稚魚は海に放流され、成魚になるのを待つ漁獲されるんです」施設を案内してくださった開発担当部長の松原弾司さんは子どもの頃から魚が好きで、下関の大学で水産を学んだ後、センターに就職したという。施設内ではメバル、カサゴなどの稚魚が、巨大水槽の中で群れになって泳いでいた。その小さな生命の輝きに圧倒されると同時に脆さも感じる。たとえばキジハタの稚魚はふ化してから2日間エサを食べないと死んでしまうと聞き、愕



竹原火力発電所
発電出力：1,300,000kW
運転開始：新1号機 2020年6月
3号機 1983年3月
所在地：広島県竹原市忠海長浜



設備の説明をしてくださる大畑博資所長（左）と筆者。



若竹色の垂直コンベアが木質ペレットを最上階まで送っている。



竹原火力発電所の新1号機本館。白い外壁に若竹色のラインが青空に映える。

14万トンの石炭が貯蔵可能な1号貯炭場の内部。

脱炭素時代を生き延びる バイオマスという技術

2020年6月に運転を開始した竹原火力発電所新1号機では、昨年8月から木質バイオマス燃料と石炭の混焼発電をスタートしたという。「混焼発電？」疑問に思う読者の方もおられると思うが、私もよくわからないので、大畑博資所長に詳しく教えていただいた。

「石炭はもともと木なんです。何億年も前に、木が熱や圧力で固められて石炭になったんですよ。つまり木質ペレットは、いちばん若い石炭ということなんです」

木質ペレットを10%混ぜると約8%のCO₂排出量が削減されること、現段階で実証されている。

実は8年前、私はこちらの発電所を見学したことがある。だが当時比べて環境に対する規制はより厳しくなり、いま世界の多くの国が「CO₂の排出量を実質ゼロに」という目標を掲げている。

竹原火力発電所ではそうした時代の潮流を受け、出力60万kWの最新鋭石炭火力発電設備である新1号機を建設した。さらに石炭が燃焼する際に発生する硫酸酸化物や窒素酸化物、ばいじんなどを大幅に減らすための最新装置も設置している。

「不確定要素が多い時代ですので、電力の安定供給をきちんと行いつつ、新しいことにも取り組んでいかなくてはいけません」

と大畑所長。木質ペレットを10%混ぜるという大規模混焼が可能になったことでまた次の課題が見えてきた、と表情を引き締める。

8年ぶりに訪れた竹原火力発電所が、未来を見据えた新しい挑戦をしていたことに勇気もらった。「課題があるから人間は知恵を出すんです」

と大畑所長が話すように、不確かな時代を生きる私たちは、挑戦することを諦めてはいけないのだと感じるルポとなった。

- 1 ボイラー棟に石炭を運ぶベルトコンベア。2 微粉炭が燃焼する様子が見える。3 新1号機のタービン。4 60万kWの出力を持つ新1号機の発電機。5 石炭に混ぜて燃やされる木質ペレット。現在使用されているのはスキ、ヒノキ、アカシアなど。6 ペレットを供給する給木機。7 オーストラリアから石炭を輸送してきた石炭船。8 新1号機の性能が学べる展示施設。プロジェクトシミュレーションを使った説明が最先端。





1 カエンコイ2 ガス火力発電所は、2004年にJ-POWERがタイ国で初めて資本参画したIPP。 2 近代的なビルが立ち並ぶバンコク。 3 工場の屋上などに設置するルーフトップソーラーパネル。 4 サラブリNK2 コージェネレーション発電所。 5 現地法人J-POWER Generation (Thailand)が入居するエクスチェンジタワー。 6 ラヨンEGCO コージェネレーション発電所では、リプレース工事が進んでいる。 7 バンコクの庶民の足となっているトゥクトゥク。 8 2015年に運転開始したウタイガス火力発電所は、160万kWの発電能力を持つ。 9 タイ出張の際に、現地法人のスタッフと撮った写真。寺澤さんは後列左から5番目。

「第一に、当社が運営する設備の保守管理を徹底し、電力の安定供給に努めます。第二に、電力販売契約（PPA）の期限満了を機にリプレースが可能な設備について、円滑に実施する道筋をつけること。そして、第三に、時代の要請である再エネを拡大していくことを考えています」

実際、リプレース案件としては、ラヨンEGCO コージェネレーション発電所がある。同発電所では、運転を継続しつつ、同じ敷地内に新設備の建設が進められている。また、再エネ案件としては、ルーフトップソーラー事業が始まっている。

「これは、SPPが電力を供給している工業団地など、お客様の工場屋根にソーラーパネルを設置し、工場に電力を供給するものです」

電力料金の高騰や環境意識の高まりから、順調な滑り出しを見せているという。

成長を続けるタイ国とともに

22年からタイ国担当となった寺澤さん。

「実は25年以上前の学生時代にバンコクに行ったことがありました。コロナ禍で、現地へ出張できなかったのはまだ一度だけですが、その際、格段に発展したタイ国の姿に驚きました。発電所の保守・運営はすでにシステム化されているので、頻りに現地に行けなくとも、問題なく業務が回っていると感じます」

タイ国の電力市場が成熟してきた中で、新しいビジネスモデルも模索していきたいと語る寺澤さん。同国電力に占める重要度を鑑み、責任とやりがいも感じていると話してくれた。

1割を超える供給力でタイ国の電力安定供給に貢献

J-POWER Generation (Thailand)

Kingdom of Thailand



02 ノンセン ガス火力発電所

03 ウタイ ガス火力発電所

01 カエンコイ2 ガス火力発電所

IPP Independent Power Producer (独立系発電事業者)	出力	運転開始	出資比率
01 カエンコイ2ガス火力	146.8万kW	1号 2007年 2号 2008年	49%
02 ノンセンガス火力	160万kW	2014年	60%
03 ウタイガス火力	160万kW	2015年	60%

SPP Small Power Producer (小規模発電事業者)	出力	運転開始	出資比率
04 ロイエット・バイオマス	0.9万kW	2003年	24.7%
05 ヤラ・バイオマス	2万kW	2006年	49%
06 ラヨンEGCOコージェネレーション	11.2万kW	2003年	20%
07 サラブリKP1コージェネレーション	11万kW	2013年	60%
08 サラブリKP2コージェネレーション	11万kW	2013年	60%
09 サラブリTLCコージェネレーション	11万kW	2013年	60%
10 チェチェンサオNNKコージェネレーション	11万kW	2013年	60%
11 ラヨンNLLコージェネレーション	12万kW	2013年	45%
12 パトゥムタニCRNコージェネレーション	11万kW	2013年	60%
13 サラブリNK2コージェネレーション	12万kW	2013年	60%

太陽光

14 GJP1・ルーフトップソーラー	800kW	2021年	60%
--------------------	-------	-------	-----

安定供給を維持しながら課題に取り組む

Jパワーとタイ国との関わりは、Jパワー設立の1952年から10年もたたない1960年代に始まる。62年に水力発電所の設計・施工管理のコンサルティングを行った後、水力・火力・バイオマス・送变电などで40件以上のコンサルティングの実績を積み重ねた。こうしてできた同国営電力会社（EGAT）との信頼関係を背景に、2000年代に入ると、Jパワーは、ローカルパートナーとともに発電所の開発・運営・保守にも参画、現在3つのIPP (Independent Power Producer: 独立系発電事業者) と、10 S.p.A. (Small Power Producer: 小規模発電事業者) およびルーフトップソーラー事業に投資している。

Jパワーが出資する発電所の合計出力は現在560万kWとなっており、これはタイ国全体の発電設備の1割強、持分出力でも313万kWに達し、同国にとって重要な位置付けの電力会社となっている。

Jパワー国際業務部でタイ国を担当するプロジェクト管理室 タイタスク総括マネージャー 寺澤真樹さんにお話を聞いた。

「タイ国との関係も60年以上となり、EGATや現地事業パートナーとの信頼関係をベースに、同地で14件の発電事業に取り組んでいます。タイ国の電力事情はほぼ成熟し、需要の伸びも鈍化してきたので、発電所を次々と新設する方針を転換し、既存発電所の安定的な運営やリプレースに重点を置くようになりました」

寺澤さんは今後の目標を次のように語る。

「当発電所は、50 Hz圏と60 Hz圏の境
 帯を管轄する佐久間電力所で、
 森近真也さんは運用設備の停止業務
 を担当する。発電機などの設備群は
 定期点検や補修のために運転を止め
 る必要がある、その停止期間を短く
 し、即応体制を維持できる作業計画
 をやり繰りする気遣いの多い仕事だ。」

「新豊根発電所では5台の発電機を使い
 分けて50Hzと60Hzの両系統へ電力供給を
 行っている。水車への流水を油圧制御
 する入口弁。発電時には左から右へ、揚水
 時には右から左へと水が送られる。足
 下の水車が生み出す力を、上層の発電機に
 伝える主軸。揚水時はこれを逆回転させる。
 発電/治水の両立、50Hz/60Hzの振り
 分け、発電/揚水の切り替えなど業務範囲は
 多岐にわたる。先輩から教わった「発電
 所に愛情を持つこと」が森近さんの信条だ。」

「電力ネットワークの安定に 発電と揚水の二刀流で貢献。」

■ Jパワー 中部支店 佐久間電力所課長代理 (取材時) 森近 真也

通常の水力発電は、ダム貯水池
 (上池) の水が落下する力で水車を回
 し、電気を起こす。この水車を余っ
 た電気で逆回転させ、下池の水を上
 池に汲みあげておき、任意のタイミン
 グで再び電気を起こるのが揚水発電。
 揚水発電は当初、需要の少ない深
 夜の電力を使って揚水し、日中の需
 要増に備えて発電量を増やす役割を
 期待された。しかし今では、太陽光

や風力などの再生可能エネルギー(再
 エネ)の利用が急拡大する中で、自
 然条件によって供給量が不安定になる
 再エネの弱点を補う「蓄電システ
 ム」として脚光を浴びている。
 「新豊根発電所では、広大で水量も
 豊富な下池の佐久間貯水池と、小ぶ
 りで水量が少ない上池の新豊根貯水
 池との間で、有効落差203mを活
 かした揚水発電を行っています。11分



POWER PEOPLE

佐久間電力所・新豊根発電所

◀ 愛知県北設楽郡豊根村 ▶



幸福を掛ける ハンガーを世界に

アパレルブランドのショップや有名旅館・ホテルなどで使用される木製ハンガー。
現在、国内で製造している唯一のメーカーが兵庫県豊岡市にある。
海外でも高い評価を受ける同社取材した。



これまで数千種類のハンガーを製造してきたという中田工芸のハンガー。上から、もっとも生産量の多いAUT-05、輪島塗りを施したWJ-01A、別注ハンガー。



幸せ度をあげる時間の使い方とは

タイムコーディネーター 吉武 麻子



服装やインテリアのように、時間も自分好みに調整することで、毎日がより心地よくなり、ひいては人生が豊かになる。そう提唱するのがタイムコーディネーターの吉武麻子さんだ。

「韓国の広告業界で働いていた時、子育てしながら元気にしながらやかに働く海外のママさんたちに刺激を受けました」

「無駄な作業を『捨てる』、部下や家電、外部サービスなどに『任せる』、思い込みやマイルールを『ゆるめる』。この3つを意識して、やらなくてもいいことを手放せば、時間は必ず生み出せます」

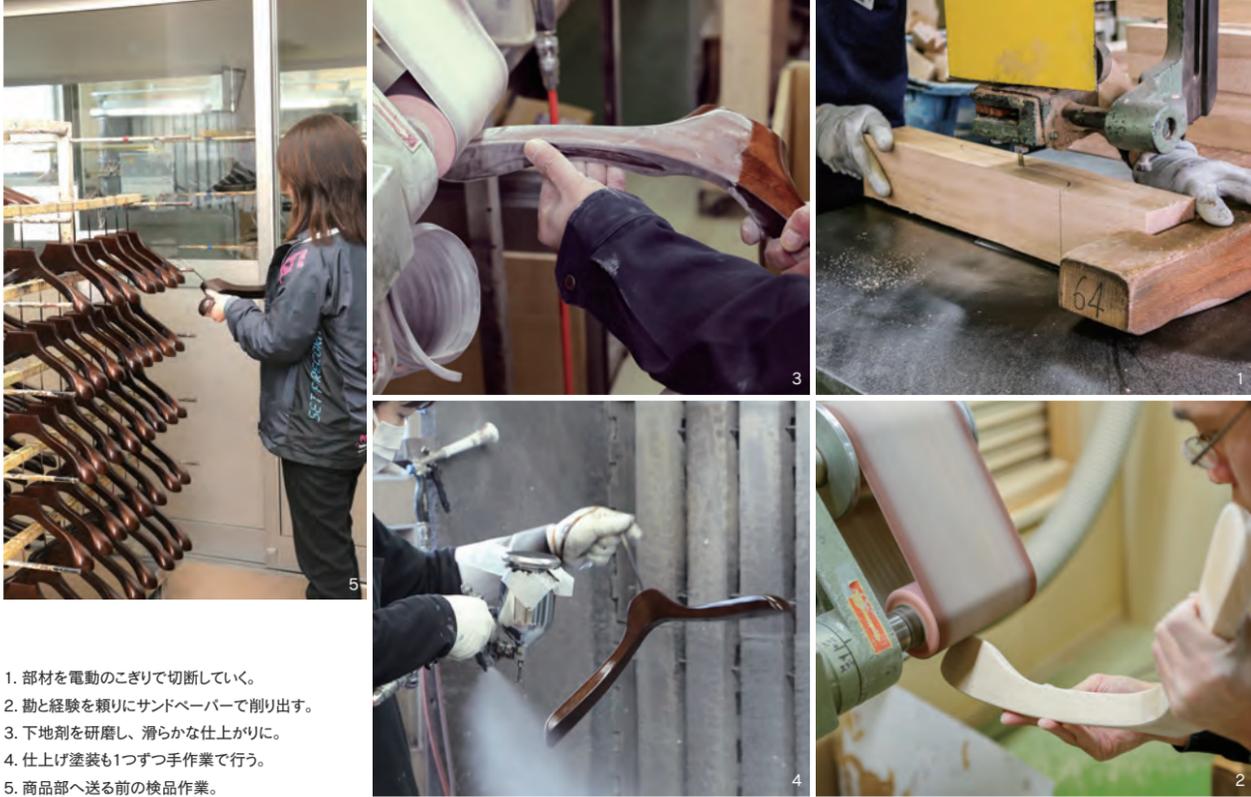
「睡眠時間は絶対に削らないこと、時間的な余裕をあらかじめ設けて、週単位で調整すること」

「無駄な作業を『捨てる』、部下や家電、外部サービスなどに『任せる』、思い込みやマイルールを『ゆるめる』。この3つを意識して、やらなくてもいいことを手放せば、時間は必ず生み出せます」



よしたけ あさこ
1981年、神奈川県生まれ。TIME COORDINATE 株式会社代表。中央大学文学部教育学科卒業後、旅行会社勤務、韓国留学などを経て独立。オリジナルのタイムコーディネート術を考案し、コンサルティングサービスや手帳販売などに従事。

<https://time-coordinate.com/>



1. 部材を電動のこぎりで切断していく。
2. 勘と経験を頼りにサンドペーパーで削り出す。
3. 下地剤を研磨し、滑らかな仕上がりに。
4. 仕上げ塗装も1つずつ手作業で行う。
5. 商品部へ送る前の検品作業。



AUT-05の製造工程。木材の歩留まりがいいように考えられている。



中田工芸を代表するAUT-06Mは、左右の木部を中央で接着して製造されている。

「アパレルブランドの 困難な要求に」応えて77年

「ハンガーには、洋服だけでなく、幸福も掛けてほしいという願いを込めて、ギフト用アイテムとしてお薦めしています」

そう語る中田工芸株式会社代表取締役社長の中田修平さんは、同社の三代目だ。

同社は兵庫県豊岡市で創業、アパレルやホテルなどの企業を対象に木製ハンガーを納入してきた。2007年、先代社長の時代に、東京・青山にショールームを開設するとともに、個人向けの販売も本格的にスタートさせた。

中田さんはそれを機に「自分にもできることがあるのではないかと」、跡継ぎとなることを決意。働いていた米国から帰国し、自社での修業を開始、17年に代表取締役社長に就任した。

「中田工芸は今年で創業77年になる木製ハンガーのメーカーです。日本の高度成長期には、岐阜や静岡など各地に多くの木製ハンガーメーカーがありました。現在は当社だけになりました」

プラスチック製品や海外からの安価な製品に押され、多くのメーカーが撤退する中、同社だけが生き残った理由を、中田さんは「アパレルメーカーなどからの厳しい要求に応える中で培われた、職人たちの技術力とノウハウにある」と語る。

「当社のハンガーは、1本1本手づくりして

成型部では、原料となる木材から部材を切り出し、接着、削り出し、研磨などの工程を行う。同社のハンガーでもっとも多い形態は、左右の木部を中央でつなぎ合わせたもの。我々がしばしば目にするタイプだ。木材の無駄が少なく、歩留まりよく（経済的に）つくることができ、環境にもやさしい製品だ。

まず、ハンガーの左右の木部を1つの木材から切り出し、それを接着剤と木製ダボ（つなぎ）に使用される小さな円筒形の部品で圧着。そこから決められた形に成型していく。

切り出しの際には、切断面を決める「型」があるが、それ以降は治具や補助具などもなく、3次元の難しいカーブがフリーハンドで見事に削り出されていく。すべて職人さんの勘と経験がものをいう世界だ。そして、中田さんがいうように、事実としては「1つとして同じものはない」のだが、それが謙遜でしかないことも分かる。

塗装部では、成型部でアップした木部に、指定の色を塗布し、衣類が傷つかないように下地剤を塗布、それを研磨した後に、さらに仕上げの塗料を吹き付ける。乾燥後に、表面に傷やむらがないか検品され、商品部に送られる。

商品部ではロゴやネームを印字し、フックやズボン吊り用部品などの取り付けを行う。最終的にもう一度検品作業が行われて、完成品となる。

実は中田工芸には、左右の木部をつなぎ合わせず、1本の部材からハンガーを削り出す芸術品のような製品もある。これをつくれる

いるため、1つとして同じものはありません。先代が言っていたのは、世界的アパレルブランドのデザイナーからの難しい要求にも一つひとつ応えてきたことがノウハウの蓄積につながり、当社の技術力を上げ、それによってブランドからの信頼を得ることができて、生き残りにつながったということです」

プラスチックは同じ形のを大量につくるのには適しているが、ちょっとした形の変更にも金型の修正が必要で、金型の製作には莫大な費用がかかる。

中田工芸は、手づくりの木製ハンガーだからその対応力と即応力を活かして、技術を蓄積してきたのだ。

「寸分の違いもない製品を つくる職人の技術力

実際に本社工場の製造現場を見せていただいた。同社の製造は、成型部、塗装部、商品部の3つの部署で行われている。



中田工芸株式会社
代表取締役社長
中田修平さん



創業当時に製造されていたハンガー。平面的で簡素な構造だ。

のは同社でも2人しかいないという、スペシャルな製品だ。

機能美と造形美を追求した 中田工芸のハンガー

中田さんは、中田工芸の木製ハンガーは、衣類を大切にしたいという人にとって、機能としても有用だと語る。

「当社のハンガーの表面は、衣類を傷つけないように細心の注意を払って丁寧に仕上げられており、湾曲したカーブは、服のシルエットを保って、長期間掛けても服の型崩れなど

小説家

佐原 ひかり

さはら・ひかり 1992年、兵庫県生まれ。2017年『ままならないきみに』で第190回コバルト短編小説新人賞を受賞。2019年、『きみのゆくえに愛を手を』で第2回氷室冴子青春文学賞大賞を受賞し、改題した『ブラザーズ・ブラジャー』で作家デビュー。その他の著書に『ペーパー・リレイ』『人間みたいに生きている』などがある。



出典：フランソワーズ・サガン『サガンの言葉』（山口路子著／大和書房）収録

「やさしさのない人とは、
相手ができないことを
求める人です。」

生きていく息苦しさや痛みを抱える人の心の動きを繊細に描く小説が、多くのファンを魅了している作家・佐原ひかりさん。二十代の半ばに、「やさしさ」について考えていた時に出会ったのが、上記の言葉だ。

「古今東西、やさしさについての定義や表現はいろいろありますが、この言葉はストーンと腑に落ちました」

例えば、会社の上司が部下に、先輩が後輩に、親が子に、自分ができるとは相手もできるはずと単純に思い込むことは、相手を踏みつけることにならないか。人それぞれ、置かれている状況や立場が違うし、能力の違いも向き不向きもある。それらを意識せずに、相手ができないことを求めるのは、サガンが指摘する通り、「やさしさ」に欠けている。

佐原さんは、そんな当たり前だが、つい忘れがちな視点をもち続け、「やさしく」ありたいと願っている。

「私自身、偏食気味で魚が食べられません。旅行先のお店で、おつくりを勧められました。苦手なものはやはり苦手で、苦い思いをしました。隣の人は自分とは違う人間、一瞬でもいいからそれを思い出すこと、意識することからしか『やさしさ』は生まれません」と。

今後も、周囲の環境や大人の影響を受けやすい子ども、少数派の人々の側に立ち、人の弱さや「できない」ことに寄り添っていきたいという佐原さん。

「世の中には、暴力や貧困など、苛酷な現実がたくさんあります。私は一人の作家として、そうした厳しい現実があることを認識し、それに抗うように物語を書いていきたいのです」

様々な困難に苦しむ人々が「ふうっ」と息をつけるように、その存在をそっと受け止める佐原さんの小説。その温かさに触れれば、明日を生きる勇気が湧くに違いありません。



1. 一枚板から製造する場合の切断方法。
2. トレンチ（襟元のカーブ）のある高級ジャケットハンガー。
3. 「南京鉋（なんきんがんな）」を使用し、フリーハンドで削り出す。複雑で繊細なラインを描き出す職人技。
4. 中田工芸の本社ビルは、JR江原駅前にある。



お客様の感動と笑顔で 世界一のハンガー屋を目指す

中田さんがこれから力を入れていきたいというのが海外市場だ。

「本年1月に、英国ロンドンで展示会を行いました。背広の語源になったといわれるサヴィル・ロウという場所があるのですが、スーツ発祥の地と呼ばれ、有名な紳士服のテラーが並ぶストリートです。展示会で、テラーの方たちに見ていただいたところ、思った以上の反応がありました。」

上に反応がよく、現地のパートナー企業と協力して、まず英国マーケットを広げていきたいと思っています」

ハンガーには著作権や意匠権などはないため、同社のハンガーを真似ようと思えば、同じような製品を製造することは可能だ。それだけに大事なことは、ブランドとしての信頼感だ。

「社員には、どうせやるなら『世界一のハンガー屋を目指そう』と言っています。それは売上や規模で世界一になるのではなく、自分たちがつくったハンガーによってお客様に世界一感動していただけるような、お客様に世界一笑顔をもたらすような、そういうメーカーになるということです」

数千種類のアイテム数があり、年間約16万本のハンガーを生産しているという中田工芸。そのハンガーに服を掛けてみれば、その滑らかな動きや、掛けられた洋服のシルエットに77年の伝統と確かな技術が込められていることが実感できるだろう。

中田工芸株式会社
兵庫県豊岡市にある日本国内唯一の木製ハンガーのメーカー。1946年、創業。年間約16万本のハンガーを製造。アパレルブランドやホテルなどを中心にハンガーを販売するが、2007年からは個人向けにも力を入れている。従業員数約60名。ブランド名はNAKATA HANGER。東京、青山にショールームがある。
<https://www.nakatahanger.com/>

J-POWERグループ新TVCM「未来への力編」放映開始

J-POWERグループでは、2月26日より新TVCM「未来への力編」を放映しています。今回のCMでは、J-POWERグループが掲げる「J-POWER “BLUE MISSION 2050”」に基づき、全世界で再生可能エネルギー開発を含めた多数のプロジェクトを推進していく姿と、未来のエネルギーである水素の製造・供給を通じ、J-POWERグループが、豊かな水素社会という希望あふれる未来を拓き続ける意志を、全編アニメーションで描いています。

アニメーションは、「STAND BY ME ドラえもん」など多くのヒット作を手がける映像プロダクション・白組が前作に引き続き制作、ナレーションも「銀魂」坂田銀時役や「鬼滅の刃」悲鳴嶼行冥役などを務める人気声優の杉田智和さんに続投いただきました。

また、TVCM運動スペシャルサイトもオープンしました。本サイトでは、「挑戦の歴史編」、「未来への力編」を通して描いた、時代ごとの情景やJ-POWERグ

ループの物語をより深く知っていただけるように制作した、全5編のオリジナルボイスドラマを公開中です。語り手として、杉田智和さんと「鬼滅の刃」竈門禰豆子

役や「虚構推理」岩永琴子役などを務める人気声優・鬼頭明里さんのお二方を起用し、熱演いただきました。ぜひ、本CMシリーズとあわせてお楽しみください。



放映情報「音のソノリティ〜世界でたった一つの音〜」

- ・日本テレビ 毎週日曜日 20:54～21:00
- ・読売テレビ 毎週土曜日 20:54～21:00
- 他、BS日テレ、札幌テレビ、中京テレビ、広島テレビ、福岡放送でも放映しています。
- ※ 放送時間は局によって異なります。



スペシャルサイトはこちら。

新島牧ウインドファームが営業運転開始

J-POWERの100%出資子会社である株式会社ジェイウインドが設備更新工事を進めてきた新島牧ウインドファーム（北海道島牧郡島牧村）が竣工し、2月16日に営業運転を開始しました。

本発電所は、J-POWERグループにおける風力発電設備更新地点として初の運転開始地点となります。

本発電所、および2月6日に営業運転を開始した江差風力発電所（北海道江差町）を含め、J-POWERが実施する国内風力発電事業は28地点（運転中22地

点、更新工事中3地点、建設中3地点）、総出力は66万2,392kWとなり、運転中および更新工事中の北海道7地点の持分出力合計は15万4,450kWとなります（2023年2月27日現在）。

J-POWERグループは、これまでの全国各地における風力発電所運営の経験と実績を踏まえ、高経年化の進んだ地点の設備更新を順次実施しています。今後も、2021年2月に「J-POWER “BLUE MISSION 2050”」で掲げたカーボンニュートラルの実現に向け、風力発電を



新島牧ウインドファーム

はじめとした再生可能エネルギー事業の持続的な開発と安定運転に努めます。

発電所概要	
発電所名	新島牧ウインドファーム
所在地	北海道島牧郡島牧村
出力	4,300kW（シーメンスガメサ製（定格出力4,300kW）×1基）
工程	2021年5月 着工 2023年2月 営業運転開始

事業会社概要	
会社名	株式会社ジェイウインド
本店所在地	東京都中央区
資本金	1億円 (J-POWER100%出資子会社)
代表取締役	斉藤 文彦 (J-POWER 再生可能エネルギー本部 陸上風力事業部長)



位置図

国内CCS貯留事業調査に向けた合弁会社を設立

J-POWER、ENEOS株式会社、およびJX石油開発株式会社は、本年2月、国内CCS^{※1}の事業化に向けた準備を加速するため、3社の合弁会社「西日本カーボン貯留調査株式会社」を設立しました。

3社はこれまで、CO₂排出量削減を図るべく、国内での大規模なCCSの事業化調査に共同で取り組んできました。カーボンニュートラルに積極的に取り組む様々な事業者とも連携し、2030年に向け

国内で初めての本格的なCCSサプライチェーン^{※2}を実装することで、エネルギーの安定供給を果たしつつ、国内の温室効果ガス排出削減目標の達成への貢献を目指しています（2022年5月10日お知らせ済み^{※3}）。

当合弁会社は、2030年のCO₂圧入開始を目指し、地域の皆様、地方自治体、および国・関係機関のご理解とご協力をいただきながら、J-POWERとENEOS

の排出源が立地し、CO₂貯留ポテンシャルが見込まれる西日本地域において、CO₂貯留候補地選定のための探査・評価などの事業化に向けた準備を推進してまいります。

会社概要	
会社名	西日本カーボン貯留調査株式会社
設立日	2023年2月14日
資本金	1.5億円
所在地	東京都千代田区

※1 Carbon dioxide Capture and Storage (CO₂の回収・貯留) の略。
 ※2 CO₂の分離・回収・輸送、圧入・貯留からなるサプライチェーン。
 ※3 2022年5月10日公表「エネルギー供給のカーボンニュートラルに向けた共同取り組みについて」
 (https://www.jpowers.co.jp/news_release/2022/05/news220510.html)

読者プレゼント

「Power of Words 私の好きな言葉」に登場いただいた小説家・佐原ひかりさんの著書『人間みたいに生きている』（朝日新聞出版）の書籍をプレゼントします（ご応募いただいた方から抽選で3名様、お1人様1冊まで）。

応募方法

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④本誌のご感想を明記の上、2023年6月7日（水）までに郵便はがき（当日消印有効）で下記住所「J-POWER『グローバルエッジ』編集室 読者プレゼント係」宛てに、または下記メールアドレス宛てにご応募ください。なお、当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。個人情報、プレゼントの発送のためにのみ使用させていただきます。



2023年4月17日発行（非売品）
 発行：電源開発株式会社
 〒104-8165 東京都中央区銀座6-15-1 TEL:03-3546-2211(代表)
 URL: https://www.jpowers.co.jp/ e-mail: globaledge@jpowers.co.jp
 編集・発行人：広報室長 下田 総一郎



*本誌発行からWebサイトへの掲載までにタイムラグが生じることがあります。